

# 会報

第60号 令和元年12月 題字は 大河原正一会長 筆

発行所



公益社団法人 福島県浄化槽協会  
 福島市野田町一丁目16番35号  
 電話 (024) 531-1778  
 F A X (024) 531-0880  
 URL <http://www.f-jkjk.com>  
 メールアドレス [info-fjk@f-jkjk.com](mailto:info-fjk@f-jkjk.com)

## 浄化槽普及促進へ各種事業を展開

### 第7回定時総会 会長に大河原氏を再選

当協会は6月14日、福島市のエルティで第7回定時総会を開き、平成30年度事業・収支決算を審議承認し、検査事業や県浄化槽生涯保証システム事業、浄化槽普及促進事業など令和元年度事業計画と収支予算を報告した。任期満了に伴う役員改選では大河原正一会長を再選した。

総会には会員ら約90人が出席した。大河原会長は「本県の復興再生に住環境の整備は必須であり、効率・効果的で環境にやさしく、持続可能な污水处理施設である合併処理浄化槽の果たす役割はますます重要になっている」と述べ、普及促進に向けて各種事業を積極的に展開する方針を示した。



大河原会長

来賓の橋本武士県生活環境部環境回復推進監兼環境保全担当次長、渡邊義祐全国浄化槽団体連合会事務局長らが祝辞を寄せた。

令和元年度の事業計画は①浄化槽法に基づく検査事業②県浄化槽生涯保証システム関連事業③浄化槽の普及促進と水環境の保全事業④浄化槽に関する受託業務など。具体的には、11条検査の受検率向上と施工・保守点検・清掃の適正化に向けて、これらの一括契約を推進。猪苗代湖周辺地域における窒素・リン除去高度処理浄化槽の設置を促進するほか、小学生を対象とした出前講座「こども環境教室」を継続開催する。県との災害協定に基づき、



約90人が出席した定時総会

支部と連携し組織体制の充実・強化も図る。席上、全国浄化槽団体連合会長感謝状を伝達、功労者等を会長表彰した。受賞者を代表し

穴澤貞夫氏が「美しい水環境を未来に引き継ぐことができるよう日々精進する」と謝辞を述べた。

総会終了後、鈴木賢二県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター副所長兼醸造・食品科長が特別講演した。「ふくしまの酒、7年連続日本一！その軌跡について」と題して、全国新酒鑑評会で金賞受賞数7年連続日本一を達成した本県産の日本酒の美味しさの秘密などを第1部で披露。総会懇親会の席上行われた。第2部では、出席者が鈴木氏の解説を聞きながら今年度金賞受賞酒を堪能した。

公益社団法人 福島県浄化槽協会 第7



謝辞を述べる穴澤氏(上写真右)と講演の第2部で金賞受賞酒を解説する鈴木氏

表彰受賞者は次の通り。※新役員は下段に掲載

▽全国浄化槽団体連合会長顕彰＝大河原正一▽同会長感謝状＝湊田政彦（ミナト）▽県浄化槽協会会長表彰＝紺野正雄（A水技研）江口典志（福島青興社）浦部公伸（郡山清興）穴澤貞夫（光和設備工業所田島営業所）佐藤安宏（平セニテーション）郡山市水管理協同組合▽同感謝状＝フジクリーン工業▽県浄化槽協会職員功労者表彰＝西山真由美（浄化槽検査委員会いわき支所）

#### 公益社団法人 福島県浄化槽協会役員（令和元～2年度）

役職	氏名	支部	所属	備考	役職	氏名	支部	所属	備考
会長	大河原 正一	郡山	(株)総合住宅環境センター	再任	理事	佐藤 幸三	喜多方	(有)佐藤鐵工所	再任
副会長	岡 光義	いわき	(合資)勿来衛生社	再任	"	横山 正弘	会津坂下	(株)高田燃料	再任
"	吉川 昭	福島	福島ネオ工業(株)	再任	"	猪俣 孝之	会津坂下	坂下清掃(有)	再任
"	中野 和典	員外	日本大学工学部教授	再任	"	穴澤 貞夫	南会津	(株)光和設備工業所田島営業所	再任
専務理事	嶋原 己八	員外	(公社)福島県浄化槽協会	再任	"	但野 浩	南相馬	(株)公水設備	再任
理事	山川 正人	福島	山川産業(有)	再任	"	田原 義久	南相馬	(株)昭和衛生センター	再任
"	大浪 喜宗	二本松	オオナミ(株)	新任	"	長尾 一雄	相馬	(合資)長栄社	再任
"	江口 典志	郡山	(有)福島青興社	再任	"	田淵 文雄	いわき	ジュシ総合設備(株)	再任
"	安瀬 享	田村	(株)伸和商会	新任	"	根本 宏	いわき	(株)アメニティいわき	新任
"	小野寺 仁	須賀川	クボタ環境衛生(株)須賀川支店	再任	監事	紺野 正雄	福島	(株)A水技研	再任
"	本多 幸雄	棚倉	(株)カンスイ	再任	"	佐藤 昌彦	員外	MASTAC佐藤会計笹谷事務所	新任

# 宅内配管工事に県費補助を みなし浄化槽 県議会各党・会派へ求める

当協会は、2020年度予算編成に向けた県議会各党・各会派に対する要望活動で、みなし浄化槽（単独処理浄化槽）転換時の宅内配管工事費を支援する県費補助制度の創設を求めた。みなし浄化槽の転換促進対策として新規で要請したもので、このほか浄化槽保守点検業者登録条例の見直しなどを訴えた。

大河原正一会長、岡光義、吉川昭両副会長ら役員、事務局11人が9月2日、県庁で自民党、公明党、県民連合に要望書を提出した。要望は①みなし浄化槽等から浄化槽への一層の転換促進②浄化槽設置整備事業の必要予算の確保③地域防災拠点への浄化槽の整備促進④浄化槽市町村整備事業の県費補助率アップ⑤浄化槽保守点検業者登録条例の見直しの5項目。

配管工事費の県費補助制度創設は、みなし浄化槽等の転換を一層促進する取り組みとして、「撤去費補助額の拡充」「県有施設における転換促進」とともに要請した。

環境省は、生活雑排水を浄化槽に流入させる宅内配管の工事費負担が、みなし浄化槽の転換を阻害する要因の一つと捉え、今年度に補助制度を新設。転換時の流入管と柵の設置、側溝までの放流管の工事費を、市町村3分の2、国3分の1負担で助成（掛かり増し分、上限30万円）する。住民と市町村の負担を軽減するとともに、工事の性質から地元企業の安定化とリフォームなど他業種への波及効果が期待されるとして、国費上



（上から）自民党、公明党、県民連合に対する要望活動

乗せ分となる県費補助の制度化を訴えた。

保守点検業者登録条例の見直しは、改正浄化槽法を踏まえ、浄化槽管理士能力維持・向上を登録更新の要件とするよう求めたもの。浄化槽の性能、構造等は日々進歩しており、適正な維持管理には浄化槽管理士の資質向上が不可欠だとして「所属する全浄化槽管理士の研修」を登録更新の要件として提案した。

設置整備事業は住宅の新築等の県費補助復活、地域防災拠点への整備促進は災害時の公衆衛生確保の観点から整備を進めるよう要望。市町村整備事業は県負担分補助率を現行の100分の7.5から3分の1に引き上げるよう要請した。



# 復興地域の浄化槽整備拡充 復興庁、環境省、自民党に要望活動

当協会は11月29日、自民党本部と復興庁で要望活動を行った。復興庁では大河原会長が田中和徳大臣に要望書を手渡し、復興地域の浄化槽整備事業の拡充などを求めた。

自民党県連の2020年度政府予算要望活動に参加した



田中大臣(右から2人目)に要望する大河原会長(同3人目)

もの。自民党本部で県選出国議員らに要望を行った後、復興庁を訪れ、田中大臣、菅家一郎副大臣らと懇談した。佐藤雅裕、鈴木優樹、佐藤義憲各県議、棚本康仁当協会総務部課長が同行した。

要望は①復興地域における浄化槽整備事業の拡充②避難所等の地域防災拠点への合併処理浄化槽の整備促進③復興地域における生活排水処理計画の見直し。復興地域の浄化槽整備事業の具体的な促進対策として、帰還住民向けの事業対象の拡大、既存浄化槽やくみ取り便槽の撤去費補助制度の拡大を挙げた。

田中大臣は要望に対して、環境省と連携して取り組む考えを示した。

なお、同内容の要望書を環境省にも提出した。

# 予算拡充へ要望書提出 浄化槽3団体 水環境保全と整備推進訴え

当協会は11月18日、県合併処理浄化槽普及促進協議



会（会長＝高松義行本宮市長）、県環境整備協同組合連合会（岡光義会長）と合同で、県に対して浄化槽関連予算の充実を求める要望書を提出し、県内における水環境の保全と浄化槽の計画的な整備推進の実現を要請した。

要望活動は、県の新年度予算編成の前に毎年行っているもの。今年度は10月に予定していたが、台風19号

三浦課長（右）に要望書を手渡す  
鳴原専務



による記録的な豪雨災害で実施を延期。災害対応で3団体揃っての要望活動は困難と判断

し、当協会の鳴原己八専務理事が代表して県庁を訪れ、三浦健生県生活環境部一般廃棄物課長に要望書を手渡した。

要望は①みなし（単独）浄化槽等から浄化槽への一層の転換促進②浄化槽設置整備事業における必要な予算の確保③避難所等の地域防災拠点への合併処理浄化槽の整備促進④浄化槽市町村整備事業における県補助率のアップ⑤猪苗代湖周辺地域における浄化槽の維持管理費用の助成⑥浄化槽保守点検業者登録条例の見直し。みなし浄化槽等の転換促進に向けては、撤去費用補助額の大幅な引き上げ、配管設置費用の県費補助制度創設、県所有公的施設に設置されているみなし浄化槽の転換促進の3施策の実施を求めた。

## 配管工事 助成制度の留意点学ぶ 適正な施工に関する講習会

当協会は8月27日、郡山市の郡山ユラックス熱海で「浄化槽の適正な施工に関する講習会」を開いた。単独浄化槽から合併浄化槽への転換を促進するため、今年度創設した配管工事費助成制度などの留意点を学んだ。

社会状況に対応した業務遂行と適正な施工技術の習得などが目的。県、市町村の担当者、会員事業所の浄化槽設備士と社員など合わせて約130人が受講した。鳴原己八専務理事が「県内10市町村が宅内配管工事費用の助成を行っている」とあいさつした。

鈴木洋県土木部建築指導課主任建築技師が「建築基準法における浄化槽の取り扱い」と題して、確認申請



講義する鈴木氏（上）と吉野氏



や計画通知書へ添付する必要書類と設置届出書での注意点、鳴原専務は「浄化槽設置整備事業」について、国が今年度から実施している「宅内配管工事費用の助成制度」の概要などを説明した。

同制度は単独から合併への転換に限り、合併浄化槽への流入管、升設置および放流管工事などの宅内配管工事を対象に、30万円を上限として工事費用を助成するもので、8月1日現在、二本松、伊達、会津若松、喜多方、南相馬の5市と国見、棚倉、下郷、南会津、浪江の5町が導入している。

吉野邦治全国浄化槽推進市町村協議会非常勤講師は「浄化槽の適正な施工と関係法令」について、浄化槽設備士の業務などを解説した。

賛助会員9社による水質測定やポンプなど機器類展示と情報提供も行われた。

## 改正法について理解深める 適正な維持管理に関する講習会 市民信頼確保へ325人出席

当協会は10月2日、郡山市熱海町の郡山ユラックス熱海で「浄化槽の適正な維持管理技術」に関する講習会を開き、6月に公布、2020年4月施行予定の改正浄化槽法などについて理解を深めた。

市民の浄化槽に対する信頼性向上と普及促進を目的に開いたもので、浄化槽保守点検業務登録業者の従業員、県や市町村の担当職員など合わせて325人が出席した。

講義に先立ち、田原義久維持管理部長が「14年



講演する櫛田氏

ぶりに浄化槽法が改正された。国内には単独処理浄化槽が400万基も残っており、合併処理浄化槽への転換を促すための知識と情報を習得してほしい」とあいさつした。

武田也実県生活環境部一般廃棄物課主事が浄化槽法の改正について、改正の背景や目的などの概要を説明。当協会の棚木康仁総務部課長が「2019年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（省エネ型浄化槽導入推進事業）」、菅原崇聖浄化槽検査委員会福島支所検査員が「小型浄化槽用ブロワにおける騒音・振動低減に関する考察」、櫛田陽明日本環境整備教育センター国家試験事業グループサブリーダー兼講習事業グループ浄化槽設備士講習担当チームリーダーが「処理機能の診断技術と水質管理の意味・測定原理」、笠原理化学工業技術部の齊藤和則氏が「水質測定機器類の動作確認の結果～適正な使用方法」と題して講義した。

賛助会員による情報提供も行われたほか、最新型の浄化槽カットモデル、水中ポンプ、ブロワ、水質測定器、顧客管理システムなどの展示も行われた。

# 本県は9件の補助申請を受付

## 省エネ型浄化槽システム導入推進事業

### 継続・拡張予定 新年度早々に説明会開催

今年度の省エネ型浄化槽システム導入推進事業の申請受付が11月29日で終了した。

本県は「51人槽以上の既設合併処理浄化槽に付帯す

る機械設備等の改修・導入事業（TYPE1）」が8件、「構造基準に基づき設置された60人槽以上の合併処理浄化槽に係る本体交換事業（TYPE2）」が1件の計9件の申請を受け付けた。

申請を受け付けた令和元年度省エネ型浄化槽システム導入推進事業（本県分）

	申請区分	設置場所	施設の用途	人槽	Co2削減量 (t-CO2)	費用対効果 (円/t-CO2)	申請担当
1	TYPE1	福島市	住宅団地集合浄化槽	1,050	20.7	14,607	保守点検業者
2	TYPE1	須賀川市	住宅団地集合浄化槽	2,800	15.7	68,280	保守点検業者
3	TYPE1	いわき市	事業所（事務所）	100	1.5	35,555	保守点検業者
4	TYPE2	いわき市	老人介護施設	245	17.6	49,242	メーカー
5	TYPE1	小野町	町営住宅	144	7.1	28,084	担当課
6	TYPE1	喜多方市	診療所	65	0.6	66,444	保守点検業者
7	TYPE1	新地町	宿泊施設	290	3.5	57,142	メーカー
8	TYPE1	石川町	宿泊施設	900	5.5	23,333	保守点検業者
9	TYPE1	いわき市	娯楽施設	205	3.00	43,133	保守点検業者

申請のあった事業の概要は〈左表〉の通り。

来年度も同事業が継続される見通しで、概算要求資料によるとTYPE2に関する対象要件の拡充が想定されることから、当協会では新年度早々に説明会を開催する予定。

## 概要、申請方法など周知 今年度事業の説明会開催

当協会は5月13日、福島市の県青少年会館で環境省の今年度省エネ型浄化槽システム導入推進事業に関する説明会＝写真＝を開き、会員らに補助制度の概要や申請方法など留意点を周知した。

説明会は午前、午後の2回開かれ、計71人が参加し

た。鳴原己八専務理事があいさつした後、棚木康仁総務部課長が補助制度の概要や申請手続きの流れなどを説明。参加者が申請書類の作成を演習し、計算方法や間違いやすいポイントを重点的に学んだ。

講習と合わせて、会員メーカーによる展示・商品説明を行った。



## 浄化槽行政の情報共有 合併処理浄化槽普及促進協議会 担当職員向け研修会に70人

県合併処理浄化槽普及促進協議会（会長＝高松義行本宮市長）は8月5日、郡山市の郡山ユラックス熱海で、今年度浄化槽行政職員向け研修会を開き、浄化槽法の改正や今年度予算の概要など、県内外の浄化槽行政に関する動向について情報を共有した。

単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換推進や台帳整備による管理向上などを目的とした浄化槽法が改正。すでに本年4月からは転換に伴う補助対象工事や助成内容などの見直しも行われていることから、浄化槽関係職員の情報共有を目的に開いた。

県と市町村の担当職員合わせて約70人が出席。協議会の鳴原己八事務局長が「整備推進のため理解を深めてほしい」とあいさつした。

全国浄化槽推進市町村協議会の高橋康浩事務局長が「浄化槽市町村設置整備推進事業－浄化槽法に基づく

事務処理マニュアル」と「みなし浄化槽から合併処理浄化槽への転換推進－単独転換先進都市の事例紹介」、環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課浄化槽推進室の板倉舞指導普及係長が「最近の浄化槽行政の動向－令和元年度予算」と「浄化槽法の一部改正」をテーマに講義した。

このほか、南相馬市建設部下水道課の荒裕樹主事が「環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備推進事業への移行」、喜多方市建設部下水道課の山口弘主査が「単独転換に伴う宅内配管工事費の助成制度」、下郷町町民課生活安全係の渡部勇進主査が「浄化槽の設置工事基準」と題してそれぞれの取り組みを紹介。棚木康仁当協会総務部課長が「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金－省エネ型中・大型浄化槽システム導入推進事業」の概要を説明した。

講義する高橋事務局長（上）と板倉係長





# 小学生に水、生活排水処理の大切さ伝える

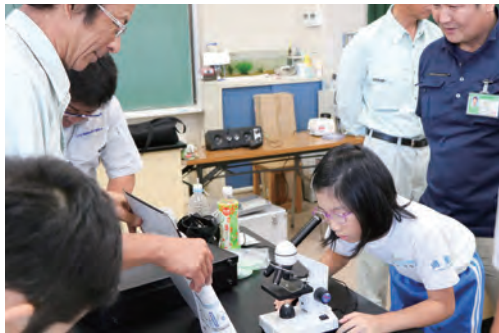
こども環境教室、4校で開催

当協会は、県内の小中学校を対象とした出前講座「こども環境教室～水のゆくえ～」を今年度、福島市立小学校4校（蓬萊小、野田小、鎌田小、湯野小）で開催し、計284人が受講した。

水の大切さや生活排水処理について理解してもらうために「こども環境教室」と題した出前講座を平成29年度から実施している。

カリキュラムは、児童自らが測定や観察を行う体験学習を中心に構成。今年度は①水循環と生活排水処理②顕微鏡による微生物の観察③パックテストによる水質測定④ペーパー類の溶解度比較実験 ⑤凝集・濾過実験（野田小のみ）を学習した。

4校とも福島支部と連携し、会員と協会職員が講師を務めた。野田小学校の出前講座は7月3日、4年生120人を対象に行われ、児童らが4グループに分かれ、実験や観察を行った。



湯野小のこども環境教室

(上から) 蓬萊小、野田小、鎌田小のこども環境教室

## 「未来の豊かな水環境の創造」テーマに出展 環境教育フォーラム2019

県主催の「ふくしま環境教育フォーラム2019」が8月10日、三春町の県環境創造センターで開かれ、当協会は「未来の豊かな水環境を創る『浄化槽』」をテーマにブース出展を行った。

出展内容は、顕微鏡による微生物の観察体験やミニ

チュアモデルによる浄化槽の構造説明や各種パネル等の展示。

当日は、出展高校と団体のワークショップも開催され、当協会は猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会（事務局＝県生活環境部水・大気環境課）と合同で水環境分野のファシリテーターを担当した。高校生からは「浄化槽の積極活用」「低コストで高性能な浄化槽の開発」「マイクロプラスチックによる海洋汚染対策や生活排水対策の強化」などの意見が出された。



微生物の観察体験コーナー



来場者でにぎわった当協会のブース



高校生らとのワークショップ

# 台風19号等豪雨災害 浄化槽2869基が浸水

## いわき市が被害の約7割占める

令和元年10月に発生した台風等による浄化槽浸水被害状況調査

(令和元年10月分)

市町村名	浸水 (影響に関わらず浸水したもの)			本体 蓋の 流失	消毒(薬)筒	
	槽上部	槽内土砂 流入	ブロフ		流出	転倒
福島市	95	14	75	5	6	1
内訳						
合併	43	2	36	0	3	0
単独	52	12	39	5	3	1
郡山市	148	65	120	3	3	4
内訳						
合併	67	28	56	0	0	1
単独	81	37	64	3	3	3
いわき市	1,989	1,215	1,948	48	11	94
内訳						
合併	1,057	720	1,027	27	5	52
単独	932	495	921	21	6	42
須賀川市	256	143	225	3	4	1
内訳						
合併	89	55	78	1	0	1
単独	167	88	147	2	4	0
相馬市	15	2	14	0	0	2
内訳						
合併	12	2	11	0	0	0
単独	3	0	3	0	0	2
二本松市	16	9	10	4	0	0
内訳						
合併	2	1	3	0	0	0
単独	14	8	7	4	0	0
南相馬市	70	1	64	0	1	21
内訳						
合併	54	1	49	0	1	16
単独	16	0	15	0	0	5
伊達市	209	16	162	16	9	2
内訳						
合併	104	6	73	6	6	1
単独	105	10	89	10	3	1
本宮市	21	2	12	1	0	0
内訳						
合併	2	0	0	0	0	0
単独	19	2	12	1	0	0
桑折町	8	0	9	0	0	0
内訳						
合併	3	0	4	0	0	0
単独	5	0	5	0	0	0
国見町	13	0	12	0	0	0
内訳						
合併	3	0	3	0	0	0
単独	10	0	9	0	0	0
川俣町	13	9	31	4	0	4
内訳						
合併	13	8	30	4	0	4
単独	0	1	1	0	0	0
棚倉町	1	0	1	0	0	0
内訳						
合併	1	0	1	0	0	0
単独	0	0	0	0	0	0
矢祭町	4	3	4	3	0	2
内訳						
合併	2	2	2	1	0	2
単独	2	1	2	2	0	0
塙町	2	0	1	0	2	2
内訳						
合併	0	0	0	0	0	0
単独	2	0	1	0	2	2
鮫川村	1	2	0	0	1	0
内訳						
合併	0	2	0	0	1	0
単独	1	0	0	0	0	0
石川町	8	111	103	2	1	8
内訳						
合併	6	36	33	0	1	2
単独	2	75	70	2	0	6
浅川町	0	2	2	0	0	0
内訳						
合併	0	1	1	0	0	0
単独	0	1	1	0	0	0
古殿町	0	1	1	0	0	0
内訳						
合併	0	1	1	0	0	0
単独	0	0	0	0	0	0
新地町	0	0	1	0	0	0
内訳						
合併	0	0	1	0	0	0
単独	0	0	0	0	0	0
総計	2,869	1,595	2,795	89	38	141
内訳						
合併	1,458	865	1,409	39	17	79
単独	1,411	730	1,386	50	21	62

注1：農業集落排水施設関連の被災や別災害に起因する事例などを除く「浄化槽本体に関する浸水被害」のみ集計。

注2：台風19号による被害及び10月25日の低気圧による被害を集計。

当協会は、10月12日から13日にかけて本県を通過した台風19号および10月25日の低気圧による大雨で浸水等の被害を受けた浄化槽の調査を会員(保守点検業者)に依頼。10月31日までの把握分として報告を受けた浸水被害の件数などをまとめた(左表参照)。

槽上部まで浸水した浄化槽は2869件、槽内への土砂流入が確認されたのは1595件。特にいわき市の被害が大きく、浸水被害の69%、土砂流入の76%を占めた。

このほか、ブロフへの浸水被害は2796基。本体の蓋が流出した浄化槽は89基で、槽内部に水が逆流したことによる消毒筒の流出は38基、転倒は141基で確認された。

台風等の被害を受けて、当協会が自主的に点検調査を行った。通常の保守点検時に被害が確認されるケースもあり、年4回の点検サイクルを踏まえ、12月までの保守点検で確認された被害状況を月ごとで3期に分け集計する予定。



洗掘された浄化槽(上)と土砂が流入した浄化槽

## 日大工学部で視察研修 水質浄化性能など学ぶ

今年度の会員施設視察研修会を11月8日、郡山市の日本大学工学部で開いた。正会員・賛助会員23人が参加した。

今回は、視察先である日本大学工学部が台風19号により大規模な浸水被害を受けたことから開催が一時危ぶまれたが、同大学の中野和典教授(当協会副会長、



ロハスの花壇を見学する参加者

浄化槽検査委員会委員長)のご尽力により開催が可能となった。

研修では、中野教授から台風19号による浸水被害の状況報告もま



じえながら、日本大学工学部が1999年に掲げている教育・研究テーマ『ロハス工学』が今年20年目を迎え、さまざまな分野で躍進していることの解説を受けた。

主題である「花壇型人工湿地の水質浄化性能」について設計理論や構造、処理水質に関する説明を受けた後、学部内に設置されている「ロハスの花壇」「ロハスのトイレ」を見学した。参加者からはろ過プロセス

あいさつする大河原会長（上）と視察研修会の参加者



に関する質問や今後の発展性などに関する質問が多数出され、新たな排水処理技術への関心の高さが感じられた。



改正浄化槽法が2020年4月1日に施行される。対応方針については環境省が設置した「浄化槽リノベーション推進検討会」で検討した。当協会では、対応について福島県および中核市3市と協議を進めている。

## 来年4月に改正法施行 県、中核市と対応協議 単独処理浄化槽の転換促進

改正の主な事項は、当協会主催の講習会や全浄連ニュースで周知している通り次の7項目。

1. 特定既存単独処理浄化槽に対する措置
2. 浄化槽処理促進区域の指定
3. 公共浄化槽制度の創設
4. 使用の休止の届出の創設
5. 浄化槽台帳整備
6. 協議会の設置
7. 浄化槽管理士の研修の機会の確保

## 11条検査 受検率向上へ対策を協議

### 浄化槽検査委員会が検討組織設置

当協会浄化槽検査委員会（委員長＝中野和典日本大学工学部教授）は11月12日、浄化槽法第11条検査の受検率向上に向けて、検討組織を立ち上げた。検討組織で「検査員による効率的な検査手法の導入」「みなし浄化槽（単独処理浄化槽）の受検率向上策」を話し合い、効率的な検査手法は令和2年9月をめどに検討結果をまとめる。

本県は、浄化槽設置基数が平成30年3月現在で27万9325基（全国7位）、30年度の新設基数が4380基（8位）と全国的にも浄化槽の普及が進んでいる。一方で、11条検査の受検率は合併処理浄化槽が64.9%（27位）と全国平均を上回っているものの、みなし浄化槽が4.1%（40位）と極端に低く、全体では29%（37位）と低迷している。

水環境の保全には浄化槽の適正な維持管理が不可欠なため、検査委員会は学識経験者、関係市町村、保守点検・清掃業者、指定検査機関で構成する「法第11条検査受検率向上策検討委員会」を設置。関係者が一体となって、みなし浄化槽を含む浄化槽全体の受検率引き上げ策をまとめる。

検討は2段階で進める予定で、検査員による効率化検査の導入について4回程度会合を開き、検討結果を検査委員会に報告。令和3年1月ごろから4年度にかけて、みなし浄化槽の受検率向上策を協議する。

福島市のエルティで開いた検討委員会の第1回会合では、委員に委嘱状を交付し、現在の法定検査実施体制、今年度の検査計画などを確認した。

委員は次の通り。

▽委員長＝中野和典▽副委員長＝濱中俊輔（日本環境整備教育センター調査・研究グループ調査研究第2チームリーダー）▽委員＝佐藤博邦（福島市都市政策部下水道室下水道総務課長補佐兼普及推進係長）近藤徳夫（棚倉町上下水道課長）山川正人（協同組合県北地区浄化槽管理協会代表理事）横山政周（郡山市水管理協同組合理事長）長尾昌也（いわき市環境整備事業協同組合理事）渡部洋紀（南会津環境整備協業組合理事長）小林幸夫（群馬県環境検査事業団専務理事兼事務局次長）大河内吉二（県浄化槽協会浄化槽検査委員会検査部長）▽オブザーバー＝三浦健生（県生活環境部一般廃棄物課長）



第1回検討委員会（上）とあいさつする中野委員長

# 菅原検査員が研究発表

## 第33回全国浄化槽技術研究集会 研究奨励・楠本賞に柵木氏

(公財)日本環境整備教育センターが主催する「第33回全国浄化槽技術研究集会」が10月8、9日の両日、秋田県秋田市の秋田キャッスルホテルで開催された。

式典で、当協会の柵木康仁総務部課長兼検査部主任検査員が浄化槽研究奨励・楠本賞を受賞した。昨年度の研究課題「福島県における小型合併処理浄化槽の破損及び補修の現状」が最優秀課題として選定された。

今年度の研究発表は、菅原崇聖検査員(福島支所)が「小型浄化槽用ブロワにおける騒音・振動低減に関する考察」と題して、ダイヤフラム式ブロワに関する現場での騒音の計測結果や各種対策効果の検証を行った結果を発表した。

次の技術研究集会は、令和2年10月14、15日に大



阪府泉佐野市で開催される。

なお、当協会職員による研究発表は今回で9年連続となった。次回も引き続き発表を行う。



大河原会長ら当協会の参加者と発表する菅原検査員

# 窒素りん型の特徴周知

## 行政・事業者、住民向け 普及拡大、適正管理へ説明会

当協会は、猪苗代湖・裏磐梯湖沼群流域で設置が義務付けられている窒素りん除去型浄化槽の普及拡大と適正な維持管理を推進するため、4月と11月に「窒素りん除去型浄化槽の管理に関する講習会」を開いた。行政・事業者、住民に対して高度処理浄化槽の維持管理のポイントや、家庭でできる生活排水対策を周知した。

講習会は、県事業で窒素りん除去型浄化槽の普及推進が目的。実施・運営業務を当協会が受託し、事業者向けと住民向けの講習会を開催している。

行政・事業者向け講習会＝写真＝は4月24日、猪苗代町体験交流館・学びいなかで開き、猪苗代湖周辺市町村の行政担当者、維持管理・工事業者等43人が参加した。堀明美県生活環境部水・大気環境課主事が猪苗代湖の水質状況を解説。秋津政志郡山市上下水道局お客様サービス課浄化槽係長と土屋和則猪苗代町上下水道課主査は、それぞれの市町の浄化槽設置整備事業補助



金の制度概要などを説明した。

フジクリーン工業第二開発部田中一也氏が、昨年モデルチェンジしたCRX II型の構造・機能と維持管理のポイントを解説。続いて、ダイキアクシス開発部の新開浩介氏が今年度に発売した窒素りん除去型浄化槽XF型(OEM:大栄産業FDP型)の構造・機能の特徴を紹介した。各社のカットモデルが用意され、参加者が窒素りん除去型浄化槽への理解を深めた。

住民向けの出前講座は11月14日、猪苗代町中目集会所で開催した。中目地区の住民16人が出席し、県水・大気環境課の鈴木仁課長、土屋和則主査らが猪苗代湖の水質の現状や補助制度について説明した。

# 森まさこ氏が加盟 浄議連、本県選出議員4人に

自民党浄化槽推進議員連盟(浄議連、会長＝鈴木俊一衆議院議員)に、本県選出の森まさこ参議院議員ら6人が新たに加盟し、加盟議員は153人となった。

本県選出の加盟議員は根本匠、菅家一郎、吉野正芳各衆議院議員と森参議院議員の4人。

## 令和元年度 会員の入会状況

《正会員：2社》

支部	社名	代表者名	所在地	電話番号	業種 入会日
須賀川	㈱関根設備	関根 秀雄	〒962-0722 須賀川市大栗字 松林85	(0248) 79-2944	工事 2019.4
いわき	いわき設備㈱	篠崎 美晴	〒970-0101 いわき市平下神 谷字山ノ内77	(0246) 38-4278	工事 2019.7